

基礎学力の定着に向けて ～「繰り返し学習」～

学習指導要領では・・・

自ら学び自ら考える力の育成といった「生きる力」の基本理念の実現に向け、基礎的・基本的な知識・技能の習得と、思考力・判断力・表現力等を育むことが重視されています。そして、基礎的・基本的な知識・技能の一層の習得・理解を図る具体的な方策として、

- ★小学校低学年から中学年までは、体験的な理解や具体物を活用した思考や理解、**反復学習などの繰り返し学習**といった工夫による**読み・書き・計算の能力の育成を重視**する。
- ★小学校中学年から高学年までは、体験と理論の往復による概念や方法の獲得や討論・実験・観察による思考や理解を重視するといった指導上の工夫が有効である。
- ★学習指導要領が示す内容事項の中で、社会的な自立の観点から重要であったり、**子どもたちがつまずきやすいといった観点から**、各学校において、重点的な指導や**繰り返し学習といった指導の工夫や充実**に努める求められる事項の例を「重点指導事項例」として整理し提示する。

といったことが大切にされています。



「繰り返し学習」の効果



- ① **読み・書き・計算の繰り返し学習は、脳の活性化につながります**
- ② **知識・技能の確実な定着が図れます**
- ③ **やればできるという実感(達成感)がわき、自信が生まれます**
- ④ **その結果、学習意欲が高まります**
- ⑤ **集中力や持続力、忍耐力などが身につきます**
- ⑥ **落ち着きや自己抑制力が身につく、学習の規律が生まれます**

【参考文献: 杉田久信「1日15分みるみる伸びる学力5つのメソッド」(フォーラム・A) 他】



笠岡市「確かな学力」育成プロジェクトの中で、「基礎学力」やそのための「繰り返し学習」の大切さについてはお伝えしてきました。学力向上を図るためには、①**理解(わかる)** ②**記憶(覚える)** ③**習熟(慣れる)**という一連の流れが必要です。

【繰り返し学習 (例)】

学力を高めるためには、「授業」と「家庭学習」、「朝の学習」などのつながりを大切にするとは言うまでもありません。そして、授業や朝の学習における繰り返し学習では、理解と定着を一層確実にすることが求められます。

笠岡市「確かな学力」育成プロジェクトで示しているように、「基礎学力」とは読み・書き・計算に代表されます。そこで、基礎学力定着に向けた具体的な繰り返し学習の例としては、次のことが考えられます。

○音読 ○暗唱 ○漢字練習(読み・書き) ○視写 ○計算練習 等々

繰り返し学習で大切なことは、子どもたちに飽きがこないように工夫することです。例えば、一定の時間を決めて問題を解かせるなど、**子どもたちに目標をもたせる**ことが重要です。